

# 無積雪地帯におけるリンドウ株の越冬技術

福島県農業総合センター 浜地域研究所

## 1 部門名

花き—リンドウ—作型・栽培型、浜通り平坦

## 2 担当者

渡邊仁司・常盤秀夫・木幡由美子

## 3 要旨

無積雪地帯のリンドウ栽培では、冬の乾燥する時期に株を堆肥等により被覆し保護することで、芽の枯死や、欠株の発生を軽減できる。

- (1) 株の被覆は、12月上中旬に行う。
- (2) 稲わらや堆肥により株を被覆することで、翌春の越冬芽の枯死や萎れが抑制できる(表1、図1)。また堆肥で被覆すると、現地ほ場で見られる、根が土壌表面に露出した株の欠株化も抑制できる(表2)。これは、越冬芽や株の保湿性を高めたことが要因として考えられる。
- (3) 本試験ではpH7.7の牛糞バーク堆肥を用いた(表3)。しかし、リンドウは酸性土壌を好むため、堆肥のpHが本試験以上の場合や、土壌pHの高い地域の場合は、これに準ずる資材として、水稻育苗培土やリンドウ専用培土の利用が考えられる。
- (4) 稲わらの場合は、春肥施用前に撤去する。堆肥などの場合は乗せたままでよい。堆肥による被覆方法を図2に示した。

表1 株の状態と被覆方法による越冬芽の状態別芽数

株の状態	被覆方法	状態別の芽数(個/株)			総数
		正常	しおれ	枯れ	
健全	無被覆	14.8	0.6	5.1	20.5
	稲わら	22.2	0.3	1.9	24.3
	堆肥	20.2	0.4	2.0	22.6
根露出	無被覆	6.0	1.6	15.1	22.6
	稲わら	13.9	4.1	2.8	20.7
	堆肥	19.9	1.4	3.9	25.1

注1)調査日は2011年3月16日。

注2)「しおれ」は表面がしわになった状態のもの、「枯れ」は茶色に変色し枯れた状態のもの。

注3)根露出とは、株元の表土を水で洗い流して根を露出させた状態。

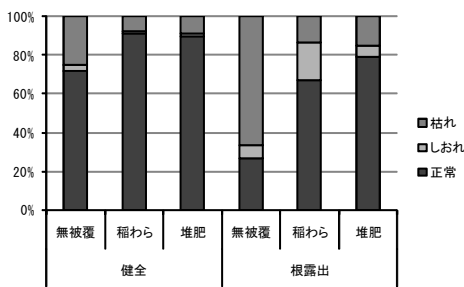


図1 越冬芽の状態別の割合

注1)表1の数値から割合を算出した。

表2 欠株率(2010年度試験)

株の状態	被覆方法	欠株率(%)
健全	無被覆	0
	稲わら	0
	堆肥	0
根露出	無被覆	20
	稲わら	20
	堆肥	5

注1)調査日は2011年9月7日

表3 使用した堆肥の性質

堆肥	pH	EC (mS/cm)	炭素 (%)	窒素 (%)	C/N比	リン酸 (%)	カリ (%)
牛糞バーク 堆肥	7.7	2.47	11.7	0.46	25.7	0.93	0.59

注)水分72.2%での値。

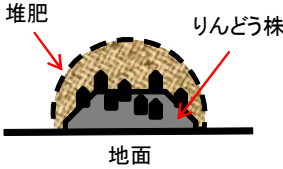


図2 堆肥による被覆方法

注)被覆する際は、株元及び越冬芽が露出しなければ良い。厚さは1~2cm程度。また、必要な堆肥の目安量は、65kg/a(定植本数710株/aを想定)。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成20年度~22年度
- (2) 研究課題名 浜通りにおける野菜・花き類の安定生産技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度~23年度センター試験成績概要